

2025 年 9 月 13 日

『センス・オブ・ワンダー』出版 60 年記念イベント

映画「センス・オブ・ワンダー」上映会&トーク

2025 年 9 月 13 日（土） 13：00～15：30

演者：上遠恵子氏（翻訳者）、森本二太郎氏（写真家）、堀田泰寛氏（撮影監督）

新宿御苑 インフォメーションセンター レクチャールーム

参加者：99 名

レイチェル・カーソン日本協会 関東フォーラム主催

（社）日本環境教育フォーラム、（社）日本シェアリングネイチャー協会 共催



まず、映画『センス・オブ・ワンダー』レイチェル・カーソンの贈りものの 30 分版を上映する。メイン州のレイチェル・カーソンの別荘を舞台に、上遠恵子さんが本を朗読する。自然の美しさ、上遠さんの優しい雰囲気、会場全体がセンス・オブ・ワンダーの世界に引き込まれていた。

休憩の後、3 人のかたが登壇された。まず、監督さん（小泉修吉氏 故人）が『センス・オブ・ワンダー』を撮りたいと思われた経緯などのお話があり、次いで撮影でメイン州のカーソンの別荘で合宿生活をした時の話などが、楽しそうに披露された。

撮影で苦労されたところは？と聞かれて、「苦労なんてありませんでした、楽しかった！」と答えられる堀田氏、本当に懐かしそうな目が印象に残った。でも、小さなものや海の中などを夢中で撮っている様子は、センス・オブ・ワンダーの虜になっていたようだったとか。

あっというまに時間が経ち、最後に未来世代へのメッセージを伺った。自分の足元に目を向けながら、自然の営みを敏感に、豊かに感じ取っていく、これがレイチェルが伝えたかったことなのではないかと森本氏。最後にロジャーが撮影スタッフに宛てた手紙が披露された。

子ども達に自然を大切にすることを教えるのは親や大人達の役目です。子ども達に、親が自然への敬意を抱いている姿を見せる、何の変哲もない岩や植物を観察し、生命の営みを見つけるにはどうしたらよいかを示す、そうしたら私たちは地球という小さな惑星を守る担い手となって、かけがえのない宝物を子ども達へ、そのまた子ども達へ手渡していくことができるでしょう。さあ、子ども達を連れて、不思議に満ちた自然と一緒に楽しんでください。

ロジャー・クリスティ
（小川）